

第 28 回 関西言語学会 ワークショップ
「統語的観点から見たスコープ解釈の諸問題」
2003.10.18. 神戸市外国語大学

NP クラスタに対する V-raising 分析について

スコープ現象からの検証

川添 愛 (国立情報学研究所)
zoeai@nii.ac.jp

1. NP クラスタ

英語の例

- (1) a. *[Last year John] and [this year Mary] went to Australia.
b. *It was [an apple to Mary] that John gave.

英語では、構成素のみが等位接続されたり、分裂文の焦点になったりすることができる。これらのような環境には二つの名詞句（または前置詞句）が現れることができない。

これに対し、日本語では、(2)(3)のような構文が可能である。

等位接続構文

- (2) a. メアリーが ジョンにリンゴを 2 つとボブにバナナを 3 本 あげた (こと)
(Koizumi 2000: 228 (3))
b. 去年花子の結婚式で 1 回と今年次郎の結婚式で 1 回、太郎がヴァイオリンを演奏した。
c. 花子が花束を 1 つと次郎が記念品を 2 つ 太郎に手渡した。
d. 巨大な生物の影を、一年前に観光客が 3 人と一ヶ月前に付近の住民が 2 人 目撃している。

擬似分裂文

- (3) a. メアリーがあげたのは、ジョンにリンゴを 3 つだ (Koizumi 2000: 234 (18b))
b. 太郎がヴァイオリンを演奏したのは、去年花子の結婚式でだ。
c. 太郎に手渡したのは、次郎が記念品を 2 つだ。
d. 巨大な生物の影を目撃したのは、一年前に観光客が 3 人 (だけ) だ。

NP クラスタ：「ジョンにリンゴを (2 つ) 」のように、二つ以上の名詞句が構成素をなしているように見える部分に対する記述的な名称

2. Verb-raising 分析

NP クラスタを V-raising 後の remnant VP と考える分析：Koizumi (2000), Kuwabara (1997)

具体例：等位接続構文

- (4) [VP メアリーが [VP [VP ジョンにリンゴを 2 つ t_V] と [VP ボブにバナナを 3 本 t_V]] あげた]
ATB verb raising

- (5) i. メアリーに_i [[トムが_{t_i} リンゴを 2 つ] と [ボブが_{t_i} バナナを 3 本]]あげた (こと)
 ii. [[トムが_{t_i} リンゴを 2 つ] と [ボブが_{t_i} バナナを 3 本]]_j メアリーに_iあげた (こと)
 (Koizumi 2000: 268 (103))

擬似分裂文¹。

- (6) メアリーがあげたのは [ジョンにリンゴを 3 つ]だ (Koizumi 2000: 234)
 構造: [OP_i [Subject t_i V-v-I]] no-wa [VP IO DO [v e]] da (Koizumi 2000: 235)

Koizumi (2000)では、(4) (5) (6)に基づいて(7)のように主張している。

- (7) 日本語には義務的な overt verb raising がある。
 (“In this article, we present direct evidence for overt verb raising in Japanese, which does not suffer from the same criticism raised against indirect arguments previously presented for or against it.” p. 228)

本発表の目的：NP クラスタを V-raising 後の remnant VP とする分析が正しくないことを、スコープ等の経験的な事実に基づいて示す。

- (8) V-raising 分析で仮定しなければならない3つの操作：
 1. V-raising: (4) (6)
 2. 共有項 ((5)における「メアリーに」のような要素) の(ATB-)raising: (5i)
 3. remnant VP(IP) の scrambling (5ii)

以下では、(8)のどの操作も仮定すると不具合が生じることを指摘する。

3. Verb raising 分析の問題点

3.1. V-raising を仮定することによる問題

Verb raising 分析の主張：NP クラスタの派生には必ず V-raising が関わっている。

予測：(一つの節に動詞が一つしかない以上、) NP クラスタは一つの節に一つ以上出てこない。

等位接続構文

- (9) a. [太郎が大阪で一回 と 花子が神戸で二回][ジョンにたこ焼きを一人前とメアリーに明石焼きを二人前] ごちそうした。
 b. [昨日大学生が 2 人と今日高校生が 1 人][手刀で瓦を 20 枚と蹴りで板を 10 枚]割った。

¹ Koizumi が擬似分裂文に対して付与している構造において、焦点の VP 内に empty V があるが、これは Koizumi の主張と内部矛盾を起こす。なぜなら、このような empty V の存在を認めてしまうと、Koizumi が自身の主張の証拠としてあげている事実はすべて V raising を仮定せずに説明できてしまう可能性が出てくるからである。例えば、Koizumi が議論に用いている等位接続構文などにも次のような構造が付与できることになる。

(i) メアリーが [[ジョンにリンゴを 2 つ [v e]]と[ボブにバナナを 3 本 [v e]]] あげた

擬似分裂文

- (10) a. [大阪でたこ焼きを一人前と神戸で明石焼きを二人前]ごちそうしたのは、[太郎がジョンに]だ。
 b. [太郎がピアノ曲を一曲と次郎がヴァイオリン曲を二曲]披露したのは、[去年花子の結婚式で]だ。

結論：NP クラスタの派生に常に V-raising が関わっているとは言えない。

3.2. 共有項の raising 及び remnant VP raising に関する問題

Verb raising 分析の主張：「NP を」「NP に」が共有項のとき、それらは必ず VP 内から移動している。よって、VP (NP クラスタ) 内に trace が残っている。

- (5) i. メアリーに_i [[トムが_{t_i} リンゴを 2つ] と [ボブが_{t_i} バナナを 3本]]あげた(こと)
 “across-the-board” scrambling
 ii. [[トムが_{t_i} リンゴを 2つ] と [ボブが_{t_i} バナナを 3本]]_j メアリーに_iあげた(こと)
 (Koizumi 2000: 268 (103))

帰結：「NP を」「NP に」が共有項のとき、共有項は常に NP クラスタを LF で c-command していなければならない

スコープ関係

予測：共有項が NP クラスタ内部の要素に対して広いスコープをとる読みが常に可能なはずである。

- (11) 太郎さえを[2人の先生が私立の名門校に1回と3人の先生が公立の進学校に1回]推薦しようとした。
 (ok 太郎さえ > { 2人の先生、3人の先生 })
 (12) 太郎にさえ[2つの会社が就職案内を1通ずつと3つの専門学校が入学案内を1通ずつ]送ってきた。
 (ok 太郎さえ > { 2つの会社、3つの専門学校 })
 (13) [2人の先生が私立の名門校に1回と3人の先生が公立の進学校に1回] 太郎さえを推薦しようとした。
 (* 太郎さえ > { 2人の先生、3人の先生 })
 (14) [2つの会社が就職案内を1通ずつと3つの専門学校が入学案内を1通ずつ] 太郎にさえ送ってきた。
 (* 太郎さえ > { 2つの会社、3つの専門学校 })

結果：共有項が NP クラスタに後続している場合、共有項が NP クラスタ内部の要素に対して広いスコープをとることができない。

束縛変項照応

予測：共有項が NP クラスタ内部の「そこ」を常に束縛可能なはずである。

- (15) トヨタさえを[そこ₁]の取引先銀行が田中氏に一回とそこ₂の弁護士が佐藤氏に一回]調査させていた。

- (16) (ok BVA (トヨタさえ、そこ₁) & BVA (トヨタさえ、そこ₂))
 トヨタにさえ[そのこの弁護士が請求書を1通とその取引先銀行が報告書を1通] 提出していた。
- (17) (ok BVA (トヨタさえ、そこ₁) & BVA (トヨタさえ、そこ₂))
 [そのこの取引先銀行が田中氏に1回とそのこの弁護士が佐藤氏に1回]トヨタさえを調査させていた。
- (18) (* BVA (トヨタさえ、そこ₁) & BVA (トヨタさえ、そこ₂))
 [そのこの弁護士が請求書を1通とその取引先銀行が報告書を1通] トヨタにさえ提出していた。
 (* BVA (トヨタさえ、そこ₁) & BVA (トヨタさえ、そこ₂))

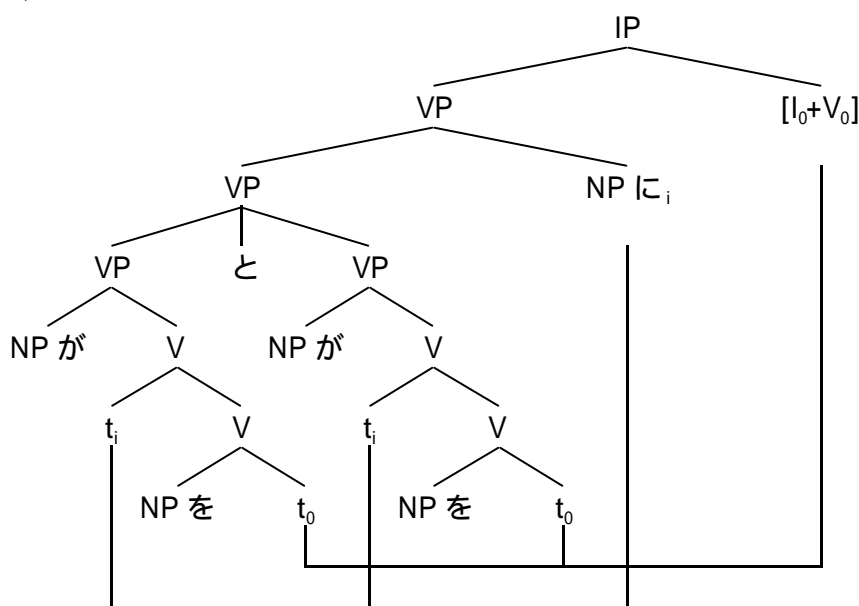
結果：共有項が NP クラスタに後続している時は、共有項が NP クラスタ内部の「そこ」を束縛できない。

結論：LF で共有項が NP クラスタを常に c-command しているという予測は正しくない。よって、(5)のような共有項の移動（及び remnant VP の移動）を仮定することは不適切である。

3.3. 共有項の右方移動に関する問題

共有項の右方移動を認めた場合はどうか？

(19)



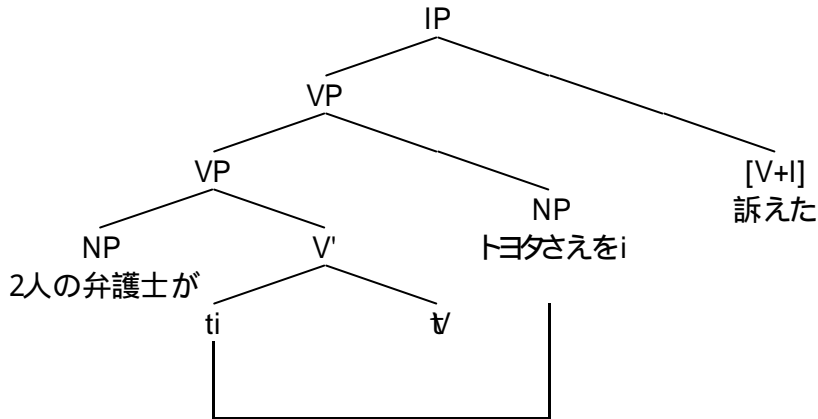
- 帰結：NP クラスタに後続する共有項でも、NP クラスタを c-command できる。
 予測：共有項が NP クラスタ内部の要素に対して広いスコープをとる読みが常に可能なはずである。
 予測：共有項が NP クラスタ内部の「そこ」を常に束縛可能なはずである。
 結果：(13), (14), (17), (18)が説明できない。

また、(19)のような右方移動を許すと、(20)において「トヨタさえを」が LF で「2人の弁護士が」を c-command する表示を許してしまう。

予測：(20)において、「トヨタさえ」が「2人の弁護士」よりも広いスコープをとる解釈が可能なはずである。

(20) 2人の弁護士がトヨタさえを訴えた。
結果：（*トヨタさえ > 2人の弁護士）

(21)



結論：共有項の右方移動は認めるべきではない。

3.4. remnant VP の移動を仮定することによる問題

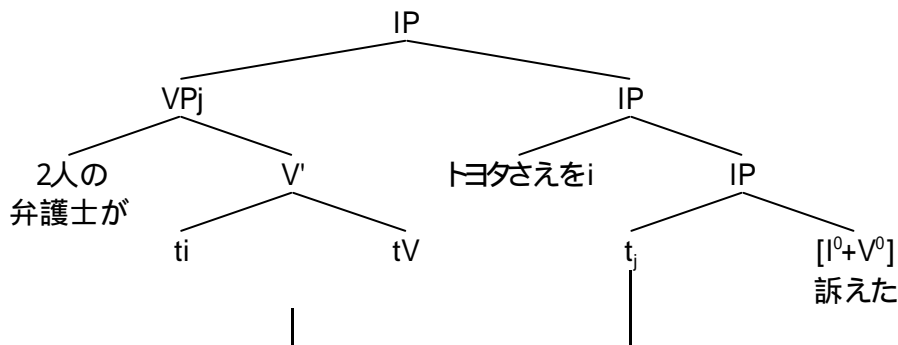
Verb raising 分析の主張：remnant VP は移動することができる。

帰結：(22)のような派生が許されると、VP は LF で痕跡の位置に再構築されることが可能である。

予測：(20)において、「トヨタさえ」が「2人の弁護士」よりも広いスコープをとる解釈が可能なはずである。

(20) 2人の弁護士がトヨタさえを訴えた。
結果：（*トヨタさえ > 2人の弁護士）

(22)



結論：共有項の移動や remnant VP の移動は認められない

4. 結語

本発表で示したこと：NP クラスタが V-raising の remnant であるという分析は正しくない

- (23) NP クラスタに対する可能なアプローチ
- i. NP クラスタを動詞を含む構成素であるとするもの
 - i-1. V-raising による分析 (e.g. Koizumi 2000) : 本発表で見たような問題点がある
 - i-2. 動詞の削除を伴う分析 (e.g. Fukui & Sakai 2003) : (24)が説明できない
 - ii. NP クラスタを動詞を含まない構成素であるとするもの
 - ii-1. NP を NP に付加する分析 (e.g. Takano 2002) : (25)が説明できない
 - ii-2. NP クラスタを VP/ IP/ NP 以外の構成素であるとするもの
- (24) a. 太郎が男子学生を 1 人と次郎が女子学生を 1 人お互いの先生に紹介した。
(解釈: 太郎が男子学生 1 人を次郎の先生に紹介した。次郎が女子学生 1 人を太郎の先生に紹介した。)
- b. 太郎が男子学生を 1 人と次郎が女子学生を 1 人、別々の先生に紹介した。
(解釈: 太郎が男子学生 1 人を紹介した先生と、次郎が女子学生 1 人を紹介した先生は別人である。)
- (25) [かなりの数の会社が男子社員 1 人と 2, 3 の会社が女子社員 2 人を] その取引先銀行に派遣した。
(ok BVA (かなりの数の会社、そこ) & BVA (2, 3 の会社、そこ))

川添 (in preparation) : (23i-2)の場合と(23ii-2)の場合の両方があることを主張する。

参考文献

- Fukui, Naoki. and Hiromu Sakai, 2003. The Visibility Guidelines for Functional Categories: Verb Raising in Japanese and Related Issues. *Lingua* 113/4-6, 321-375.
- Koizumi, Masatoshi, 2000. String vacuous overt verb raising. *Journal of East Asian Linguistics* 9,. 227-285.
- Kuwabara, Kazuki. 1997. On the properties of truncated clauses in Japanese. In Kazuko Inoue (ed.) Report (1) *Researching and Verifying an Advanced Theory of Human Language*, 61-84, Kanda University of International Studies.
- Takano, Yuji. 2002. Surprising constituents. *Journal of East Asian Linguistics* 11, 243- 301.
- 川添愛 (in preparation) 『日本語における「NP クラスタ」の分析 (仮題)』 博士論文、九州大学。